

5年 総合的な学習の時間研究授業のまとめ（7月9日）

1 単元名及び単元の目標（22/25）

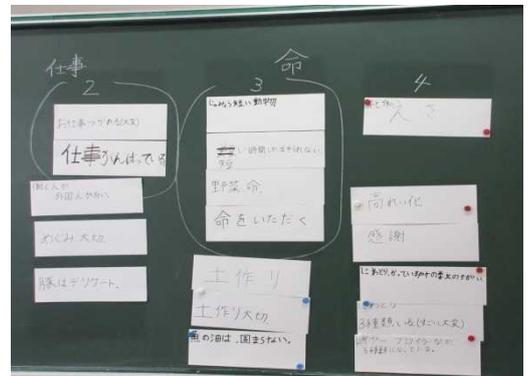
小単元「食材のルーツをさぐる」

- ◎ 自分の好きな食材について調べ、調べたことを伝え合ったり、生産者の方の話を聞いたりすることにより、食材の大切さに気付くとともに、気付いた点に対して自分にできることを考える。

2 本研究授業の提案について

「食べる」ということは食材の命をいただいていることや、食材生産に関わる方の労力や思い、食材を取り巻く課題について、自分なりの思いを持ったり、考えを深めたりするために以下の提案を行った。

- (1) 食材について調べたりゲストティーチャーから聞いたりしたことを整理するために、食材グループごと（農産物・水産物・肉・卵・牛乳）に色分けした付箋を活用してグループごとに話し合い、食材が違って共通する事柄ごとにまとめさせた。まとめた後に、どのような共通点なのかタイトルを付けさせた。どの食材も、表現は違って「命をいただいている」ことに気付ける要素があり、すべてのグループが見つけたタイトルも付けることができたので、食材の命をいただいていることには十分に気付くことができたと思う。（資料1参照）しかし、仕事の大変さに気付く児童は多かったものの、第一次産業に携わる方の高齢化や外国人労働者が増えていることは、意見が出ていたにもかかわらず、十分に関連づけたり考えさせたりすることができなかった。グループでまとめる活動に時間がかかりすぎてしまったためである。付箋を活用することは、グループでの話し合いで全員が自分の思いを根拠を持って伝えることができ有効であった。また、食材ごとに付箋の色を違えたことも、「食材が違って共通している」ことが視覚的に捉えられ有効であった。しかし、短時間で付箋の内容が把握できれば更に話し合いが深められたと考えられ、前時での付箋記入の際に、「短い言葉で書く」という指示や、枚数を制限することが必要だったと思われる。



【資料1 グループのタイトル】

3 本研究の授業技術課題について

- (1) 年間を通して取り組む大単位では、自分で調べる、ゲストの話聞く、野菜の種を蒔き、育て販売する、など様々な方向から「食」を通して「食材に関わること」について考えられるように単元構成を考えている。本小単元では、自分の好きな食材について調べることから始めたことにより、意欲的に取り組めた。また、調べた食材について生産者の方に直接話を聞いたことが、さらに、「食」について真剣に考えていこうという意欲につながったと思われる。
- (2) 付箋を使うことにより、全員が話す、根拠を持って話すことができた。また、前時にこれまでの活動を振り返り付箋を記入したことで、本時での話し合いの時間を確保することができた。

4 次回の研究授業へ向け

以上のことから、これから次の2点を意識した授業を展開したい。

- ・付箋を話し合いで生かせるために、簡単に内容が読み取れるように記入させる。
- ・年間を通して取り組むので、各自の学びが振り返られるように工夫する。